



会津若松市オープンデータの取り組み ～ 担当者目線で見ると見る推進のポイント～

2015年6月2日

会津若松市 総務部情報政策課 藤井淳

※このスライドはLibreOffice Impressで作成しています！

本日の内容

- ・ 自己紹介
- ・ 会津若松市の取り組み経過
- ・ なぜ会津若松市は先進的と評されるのか？
- ・ オープンデータの必要性についての認識
- ・ なぜ自治体のオープンデータが進まないのか？
- ・ どう取り組めば良いのか？





会津若松市の取り組み経過

- ・ 2012年7月
市公式ウェブサイト上でのデータ公開を開始
 - ・ 人口統計（住基人口）、公共施設マップ
- ・ 2013年1月
LinkDataの活用（RDF形式での公開）
- ・ 2013年3月
「LODチャレンジ2012」にて公共LOD賞を受賞
- ・ 2013年4月
第5次会津若松市地域情報化基本計画において、
オープンデータの拡充・普及啓発推進を明記



- ・ 2013年6月

総務省「ICT街づくり推進事業」を受託、事業実施

- ・ オープンデータ基盤の構築（DATA for CITIZEN）

- ・ 2013年11月

庁内検討チーム活動開始

- ・ 庁内職員による勉強会、各種イベント参加

- ・ 2014年10月～12月

オープンデータコンテストの実施

- ・ アプリ、データ、アイデア、活動の4部門
- ・ 応募総数63件
- ・ 今年も第2回があるよ！
- ・ 最優秀賞は賞金20万円（予定）





なぜ会津若松市は先進的と評されるのか？

- ・ 取り組みが他の自治体に比べて早かったから
 - ・ 2012年から取り組んだ自治体は3都市程度
- ・ 独自のオープンデータ利活用基盤を持っているから
 - ・ データ蓄積、アプリ開発、要望の集約を一つの基盤で
- ・ 公開したデータを活用してくれる人や組織の存在
 - ・ 会津大学、Code for AIZU、地元ベンチャー企業、、、
 - ・ データを活用したアプリやデータそのものの提供
 - ・ データをもとにした分析、地域課題解決
 - ・ アイデアソン、ハッカソン等のイベント開催

※自治体に限って見れば、大きく抜きん出ているところはない

⇒スタートを切ったのは行政だが、

取り組みが大きくなったのは地域の協力があったこそ





オープンデータの必要性についての認識

- 欧米ではデータの公開や利活用が進んでいる
 - 世界的な「オープンガバメント」の潮流、様々なビジネス事例
- 日本でも国策として押し進めている
 - 世界最先端IT国家創造宣言
 - からの、アクションプランや推進ロードマップ作成、各種実証事業
- 地方自治体にこそ必要
 - 財政難、人員削減、アウトソーシング
 - 多種多様な市民ニーズ
 - 行政だけの検討、対応は限界が見えてきている

⇒将来的にはウェブサイトと同じように、オープンデータに取り組んでいることが当たり前になる






なぜ自治体のオープンデータは
進まないのか？

- ・ もうウェブサイトで情報公開してるじゃん？
 - ・ そういうことじゃない
 - ⇒ 根気よく周知していくことが必要
- ・ なぜやるのか、何をどうすればいいのかわからない
 - ・ 法律も条例も基準も手順書もない手探り状態
 - ⇒ ウェブサイトやLinkDataを活用して小さくスタート
- ・ 費用対効果がわからない
 - ・ わざわざ人手をかける必要があるのか？
 - ⇒ 市民協働やイノベーションのためのツール。成果は後からついてくる！
- ・ オープンデータの活用イメージが湧かない（←重要！）
 - ・ データを出してどうなるの？

データは活用されてナンボ。「活用する人」「活用事例」が絶対必要！





どう取り組めば良いのか？

自治体

- ・まずは自課データにCC BYをつける（課長決裁でOK）
- ・成果は後からついてくることを認識

・ LinkDataの活用

**大きく構えず、
Start smallで！**

民間

- ・各種データを公開するよう、自治体に要望する
- ・自分たちで収集可能な地域のデータを集めていく

・ LinkDataの活用

**オープンデータ活用のイメージ、
可能性をどんどん見せていく**

会議やイベントでの積極的な交流（アイデアソン、ハッカソン、勉強会etc）

- ・どんなデータがあるの？それって出せるの？
- ・ITでどんなことができるの？
- ・課題の発見やアイデアの創出

直接顔を合わせての対話や意見交換が気づきを生む





ご清聴ありがとうございました